



Kamishihoro

街彩探訪・かみしほろ

KAMISHIHORO



町勢要覧 上士幌 2001年10月発行

■編集・発行／上士幌町役場企画課
北海道河東郡上士幌町 TEL01564-2-2111(代)

特集1

大自然にあそぶ

上士幌町のシンボル熱気球。1974年日本で初めての熱気球大会「第1回上士幌熱気球フェスティバル」を参加数5機により開催しました。以降大会の規模は徐々に大きくなり、現在では約50機が参加する大会になりました。この間4度の日本選手権の開催など、上士幌町と熱気球は切り離すことのできない関係になりました。毎年8月には「北海道バルーンフェスティバル」2月には「上士幌ウインターバルーンフェスティバル」が行われ、町全体で「町のシンボル熱気球」を応援しています。

Kamishihoro

街彩探訪・かみしほろ

特集1：大自然にあそぶ

- 大自然にあそぶ1
- 空から考えるまちづくり3
- 森が育むもの5
- 水が与えし生命のふるさと7

特集2：自然の恵みに感謝して

- いのちを育むもの9
- ふれあって、心がいきいき11
- 人が作る生きた町並13
- 素晴らしき歴史の遺産・アーチ橋15
- 子や孫に財産として残せる森と資源を16
- 温泉街再生17

- 上士幌町の物産、イベント18
- 街彩探訪19
- 上士幌町のあゆみ21
- 上士幌町の概要22



昭和45年、日本で初めて熱気球の集団フライトが行われ、競技会が開催されたのが上土幌町。以来、日本選手権も開催されるまでになり、国内外からも多くの人が訪れる熱気球の町として成長してきました。

「平地が多く気流の安定、そして離着陸に欠かせない牧草地があることが、フライトの条件に最適なんでしょうね」

バルーンニストの中井さんは、空から上土幌の魅力を語ります。日本では佐賀県でも熱気球の大会が開催されており、町ぐるみで交流を行っています。

「熱気球競技は、技術はもちろん、何よりチームワークが大切。パイロット、競技の記録を行うオブザーバー、気象状況を見るウェザーなど、それぞれが自分の力を出すことが結果につながります。そして安全なフ

ています。バルーンに関わる人材育成、上土幌の自然を生かしたスカイスポーツ振興の視点からも、他の町との交流が大切だと中井さんは言います。

ライトのために、みんなが心をつとにすること」

まちづくりにも同じ姿勢で取り組んでいる中井さん。空から眺めることによつて、上土幌の自然や、人の素晴らしさを再発見しました。

「大空を気持ちよさそうに浮いているように見えるでしょう。その風景には牧草地を貸してくれる地域の人ははじめ、さまざまな人の協力があり、この町で気球をあげたいとい

う熱意に支えられています。この素晴らしい風景が上土幌の原風景となるように私たちが頑張らなくては」

青い空、緑の地平線、浮かぶカラフルな熱気球。上土幌は自然と人が空で融合できる、素晴らしい町です。



上土幌町は、熱気球の町として全国的に有名。毎年開催されるバルーンフェスティバルには全国からバルーンニストが集まる。パイロット歴十七年の中井さんは、空からのまちおこしを願っている。

中井 靖彦 さん

バルーンニスト
Yasuhiko Nakai

空から考えるまちづくり



Looking at our growing town from the sky
Kamishihoro is known as the "Town of Hot Air Balloons." Balloonists from around Japan gather at the annual balloon festival. Mr. Nakai, a balloonist for 17 years, hopes to revitalize the "town of Hot Air Balloons"



What Forests Nurture
 Daisetsuzan National Park is the largest mountain national park in the nation and the eastern part is in Kamishihoro town. It is a haven of precious plants and animals. Through various activities, Mr. Ozawa hopes to teach people about what can be learned from the rich natural surroundings of eastern Daisetsuzan. To teach people about Daisetsuzan National Park and its nature is the pleasure of people like Mr. Ozawa.

小澤

ネイチャーガイド
 Katsuhiko Ozawa

克彦さん

森が育むもの

日本一の山岳国立公園。貴重な動植物の宝庫。その豊かな東大雪の自然が教えてくれるものをさまざまな活動を通じて発信していきたいと言います。それが、東大雪で自然とともに生きる人間の使命だからと。

日本で最も広く、最も原始的な山岳国立公園の大雪山国立公園。約23万haのうちの13万haが東大雪と言われ、そのほとんどが十勝に属しています。上土幌が世界に誇る、貴重な動植物の宝庫であり、手つかずの自然が今も残る東大雪の山々。その東の玄関口、糠平温泉に「ひがし大雪自然ガイドセンター」ができて、5年がたちます。

昨今のアウトドアブームを後目に、東大雪の自然は厳かに時を刻んでいるように感じられます。神が宿る：という言葉がびたりと来るほどの自然が両手を広げているのです。自然に背きながら現代を生きている人こそ、ここで自然の素晴らしさを実感してほしいと小澤さんは言います。「東大雪の自然は特別ですね。自然と人が昔から守ってきた距離感が、今でもありそうな気がします」北海道にたくさんの観光客が押し



寄せる夏でも、騒がしいという雰囲気ではありません。訪れる人が、その家族がそれぞれに自然との対話や自分の心の内との対話を楽しめるような静かさがあります。

「旭川方面、層雲峡との交通の要所であるので、夏は通る人は多いんですけどね。ここは山好きな人や、ちよつと変わった人が来るところなのでしよう(笑)。」

ヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾモモンガ、エゾリス、シマリス、そして氷河期からの生きた化石とも言われ

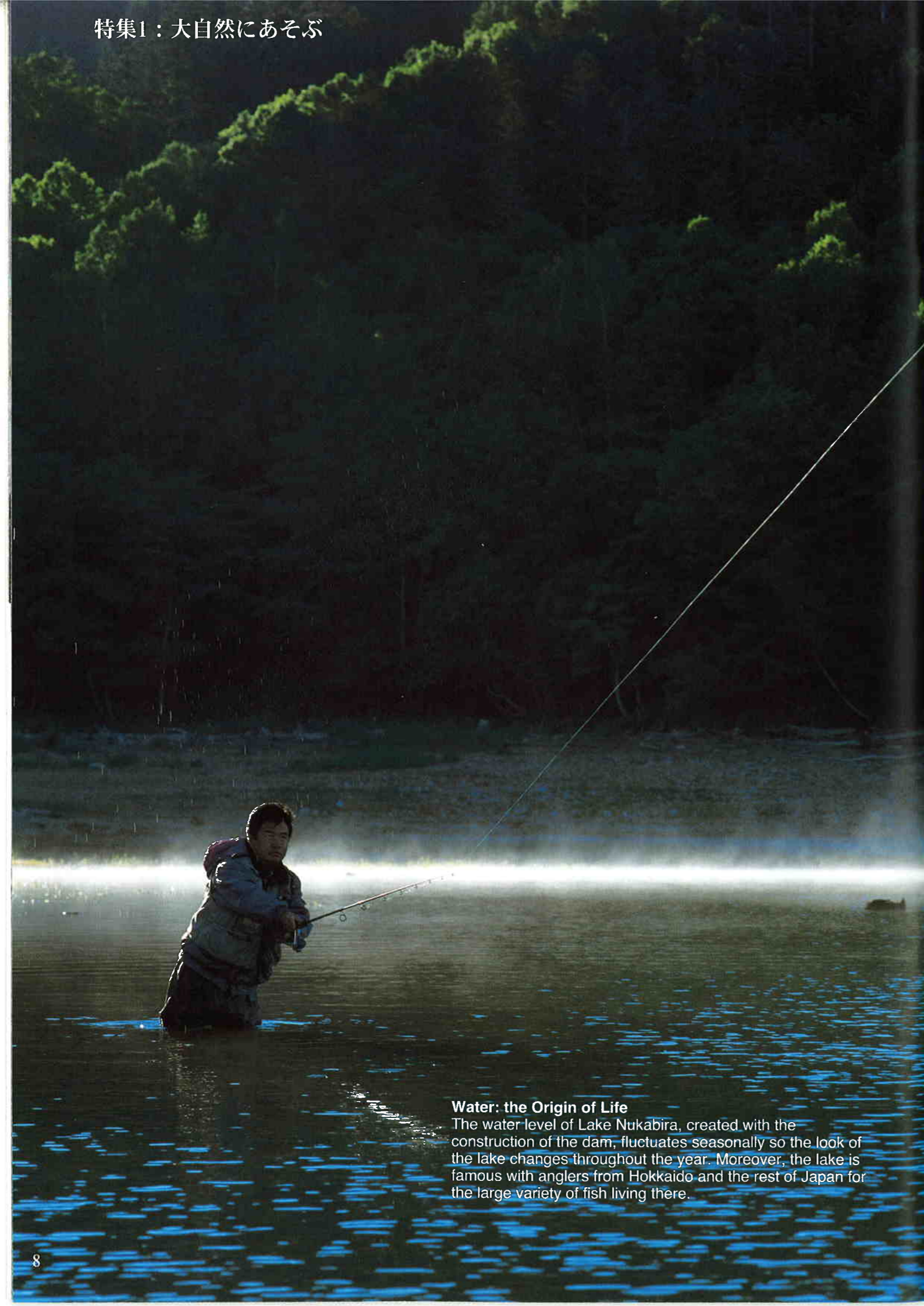
るナキウサギなどが、鳥類でもミユビゲラ、クマガゲラ、シマフクロウなど貴重なものが数多く生息します。貴重な高山植物も多いことで知られています。

ガイドセンターと共に東大雪の自然学習を支えるもうひとつの存在が「ひがし大雪博物館」です。東大雪の自然や世界中の珍しい昆虫を展示している自然科学系の博物館で、コレクションの量、質ともに東日本随一の規模を誇っています。「ここ数年は、アウトドア人気で

すが、私たちは一過性のアウトドアではなく、東大雪、糠平でなくては感じられない自然との付き合い方を提案すると同時に、身近な自然との関わり方も提案していきたい。それがこの自然相手の仕事を行う人間としての使命だと思っんです」。

森に目をやると、小澤さんは薫る風を深く吸い込みます。





Water: the Origin of Life

The water level of Lake Nukabira, created with the construction of the dam, fluctuates seasonally so the look of the lake changes throughout the year. Moreover, the lake is famous with anglers from Hokkaido and the rest of Japan for the large variety of fish living there.



水が与えし生命のふるさと

糠平湖は、ダム建設によってできた人造湖。季節によって水量が変化し、湖はさまざまな表情を見せてくれる。それにも増して多彩な魚が生息していることでも有名。全道、全国の釣りファンが熱い視線を注ぐ数少ない湖。

山本

上士幌フィッシング
クラブ会員
Hidekazu Yamamoto

英一さん



「糠平湖では80cmもあるマスがまだ釣れるんだ」と歯科医師であり釣り人でもある山本英一さん。糠平湖に惚れ込んで、上士幌町に住み着いた一人です。終戦後の復興期とともに本格的な電源開発が始まり、発電用として糠平ダムの工事が始まりました。昭和30年ダム完成とともに、周囲32kmの人造湖「糠平湖」が完成しました。湖の西には東大雪の山々が折り重なるように見え、今では自然湖のように落ち着いたたたずまいを見せてくれます。



めに、全国から釣り人が訪れる湖には、サクラマス、ニジマス、そして大きなブラウントラウトなど様々な魚が生息しています。また冬には凍った湖上にワカサギ釣りのためのテントが建てられ湖上は格別の賑わいを見せます。魚がたくさんいる、つまりそれだけ水も森林も豊かなということなのです。「上士幌では、町の財産として糠平湖や、音更

川を守り、育てる活動をしています。マス類は川を産卵のために登りますから、産卵場所となるような小砂利の場所を作る努力をしています。そうした活動が、新たな資源を育んでいくのです。そして、また自然との対話を楽しみ、魚たちを釣り上げようと、人が湖を訪れます。山深く抱かれた糠平湖はロケーションの良さも釣り人に魅力的な場所だと、山本さんは言います。「これからは、他の町村とも情報交換しながら、きれいな川、きれいな湖を後世に残していきたいですね」ダムにはイワツバメが飛び、周囲にはキタキツネ、エゾシカやヒグマもすんでいます。糠平湖や音更川をもっと多くの生命を育む場所に。山本さんの願いです。



自然の恵みに感謝して

農業のまち上士幌。酪農王国ともいわれるこの町で、いま新しい酪農経営の形が育っています。将来を見すえ、安心、安全な「食」の提供を…。若い酪農家が挑戦する大きな夢と、酪農の魅力を開かせてくれた。

いのちを育むもの



農業を営んで4代目となる新村さん夫妻。畑作、畜産、酪農などの農業形態があります。新村さんは酪農専

業農家です。日本の食糧基地とまでいわれる十勝の農業。近代化、大規模化が進む一方で、従事者の高齢化、後継者不足などの問題もあります。

しかし、新村さん夫妻のような若い世代が、新しいスタイルで農業に取り組む姿が、ここ上士幌でも芽生えつつあります。

「子供の頃は、大変な仕事だと思っていました。でも、酪農は自分のところで新鮮な牛乳がとれるわけです。食は人の命にかかわる大切なもの。生産性だけを重視するのではなく、安全、安心な食を生産者の立場から見つめ直したいと思いました」
そして、新村さんは試行錯誤を繰り返して、乳製品の製造に着手。現在、

牛乳、ミルクジャムやチーズケーキ

などをオリジナルブランドとして製造、販売しています。添加物の入っていない安全な食品として徐々に広がりをみせ、上士幌町の新しい特産品に成長しています。

「広い草原で牛たちが草を食べ、そして健康な牛乳を搾らせてくれる。自分で学び、考え、創造する魅力ある仕事、そしてだれもがイメージするような本来の牧場の姿を自分の手で育てていきたいんです」

新村さんは、常に牧草地で草の状態や、土の状態を見えています。牛たちがおいしい草を食べ、美味しい牛乳を出してくれるようにと真剣に取り組んでいるのです。

「これからも色々な人たちの助けを借りながら、もう一度この場所ですてい美味しい牛乳を味わいたいと思ってもらえるような牧場を一生かけてつくっていきます」

十年先、二十年先を見据えた農業が、北の大地・上士幌で大きく夢を広げています。

酪農家 新村

Eri Shinmura Hiroataka Shinmura

浩隆さん 恵理さん

What Nourishes Life
Kamishihoro is an agricultural town. A new style of dairy farm management is now developing with the goal of providing safe, healthy and tasty products. Young innovative dairy farmers talk about their dreams and the attractiveness of dairy farming.



上土幌町では、保健、医療、福祉の充実により、だれもが安心して暮らせるまちづくりを柱として掲げています。この具現化に向け、保健部門の中心である健康増進センター内に整備した在宅介護支援センターを地域ケア体制の拠点として位置づけ、地域ケア会議を通して、保健、医療、福祉の連携を強化する中で、情報の一元化・共有化を図り、きめ細かく、質の高いサービス提供体制を目指しています。

重労働なんです。その支えになれれば嬉しいですね」

その人にあつた支援ができ、健康状態などにも気を配り、支援が必要な方をとりまく状況を考え、一番いいプログラムを作ります。町の「だれもが安心して暮らせるように」の方針がそのまま石川さんの願いです。

「お年寄りの多くは、生まれ育ったこの町で、老後も楽しく暮らしたいと願っています。お年寄りが元気で生き生き暮らせる町っていいですね。そのために、私達後輩が保健や医療、福祉の専門的な知識を学び、思いやりとやさしさをプラスして必要な人に必要な支援をしていきたいのです」

いずれ、自分も年をとるのだからと言う石川さん。今は待っていてくれるお年寄りがいるのが幸せと云います。上土幌町は、だれもが健やかに、安心して暮らせる町のために、施設の充実はもとより、保健、医療、福祉に携わる人の育成も積極的に行い包括的なケアシステムの確立を目指しています。

ふれあつて、心がいきいき

ています。

この地域ケア会議のメンバーでもある石川京子さんは、ホームヘルパーとして高齢者の暮らしをサポートしています。

「ちよつと手を貸してあげるだけで、日々の暮らしが楽になるお年寄りがたくさんいらっしゃいます。買い物や、掃除、洗濯など、若い人は感じないでしょうが、お年寄りには



ホームヘルパー

石川 京子さん

Kyoko
Ishikawa

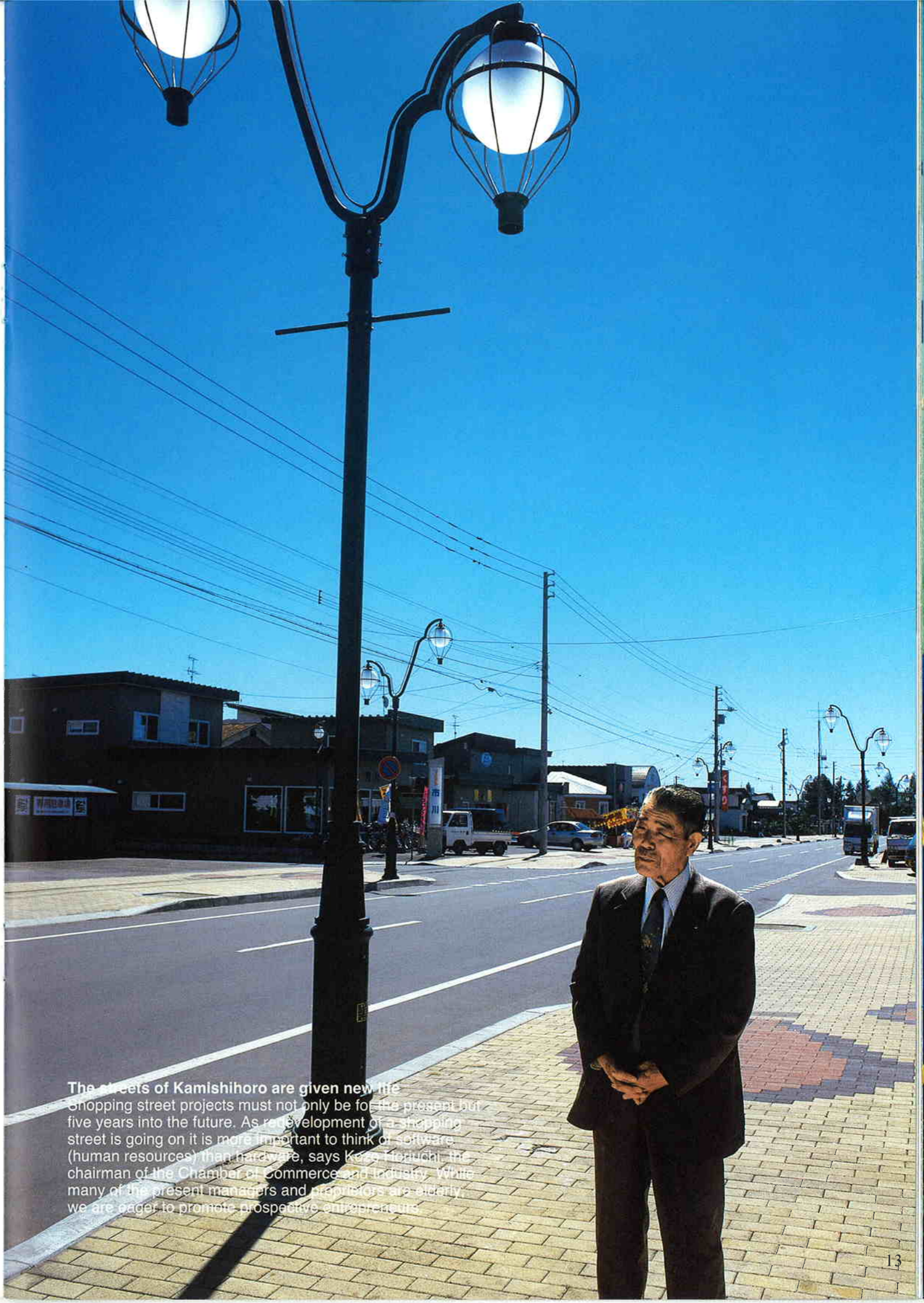
Fellowship Brightens Lives
Many citizens hope to live happy and healthy lives in the towns where they were born and raised. The town of Kamishihoro promotes exchanges between the generations. It also gives access to health, medical and welfare information to help them realize this dream. The town will establish multiple support systems to span generations.



特集2 自然の恵みに感謝して

人が作る 生きた町並み

今よりも5年後の商店街を見据えた活動を。近代化事業が行われる中でハード面よりもソフト面が大切だと訴えつつづけている橋内さん。経営者、事業主の高齢化が進む一方で、未来の起業家育成に力を注ぎたいと未来像を掲げています。



The streets of Kamishihoro are given new life. Shopping street projects must not only be for the present but five years into the future. As redevelopment of a shopping street is going on it is more important to think of software (human resources) than hardware, says Kozo Horouchi, the chairman of the Chamber of Commerce and Industry. While many of the present managers and proprietors are elderly, we are eager to promote prospective entrepreneurs.

人口の減少、少子高齢化、後継者問題など、上士幌町でも、他の地方都市が抱える問題を同じように抱えています。しかし、町では魅力ある商店街への未来像を掲げ、平成4年から近代化事業を計画し、平成10年より着手しました。その中心的存在が、上士幌町商工会です。現在、商工会の会員は212事業所。その長を勤める橋内孝三さんは言います。

「近代化事業によって確かに街並は美しく、新しくなった店が建ち並んでいます。でも問題は、これからのソフト面。経営者の高齢化もありますし、過疎化の問題もあります。でも、3年、5年後にもしつかり経営が成り立つように今からみんな考えなくては」

大正時代に十勝三股で造材業が盛んになり、また終戦後の糠平ダム建設工事などで、多くの人が職を求め上士幌に入り、町が一気に活性化した時代もありました。そうした時代を背景に昭和35年、商工会が発足。当時は、地域商業発展のために、事業主の資金面などのバックアップが主な役目でしたが、現在は地域振興

の団体として幅広い活動が求められています。町のイベントへの協力・参加、農産物・酪農製品や養蜂などの良質な地場特産品の開発や販路拡大などを積極的に行うと同時に、若い起業家や新規事業者の育成も新たな使命としています。

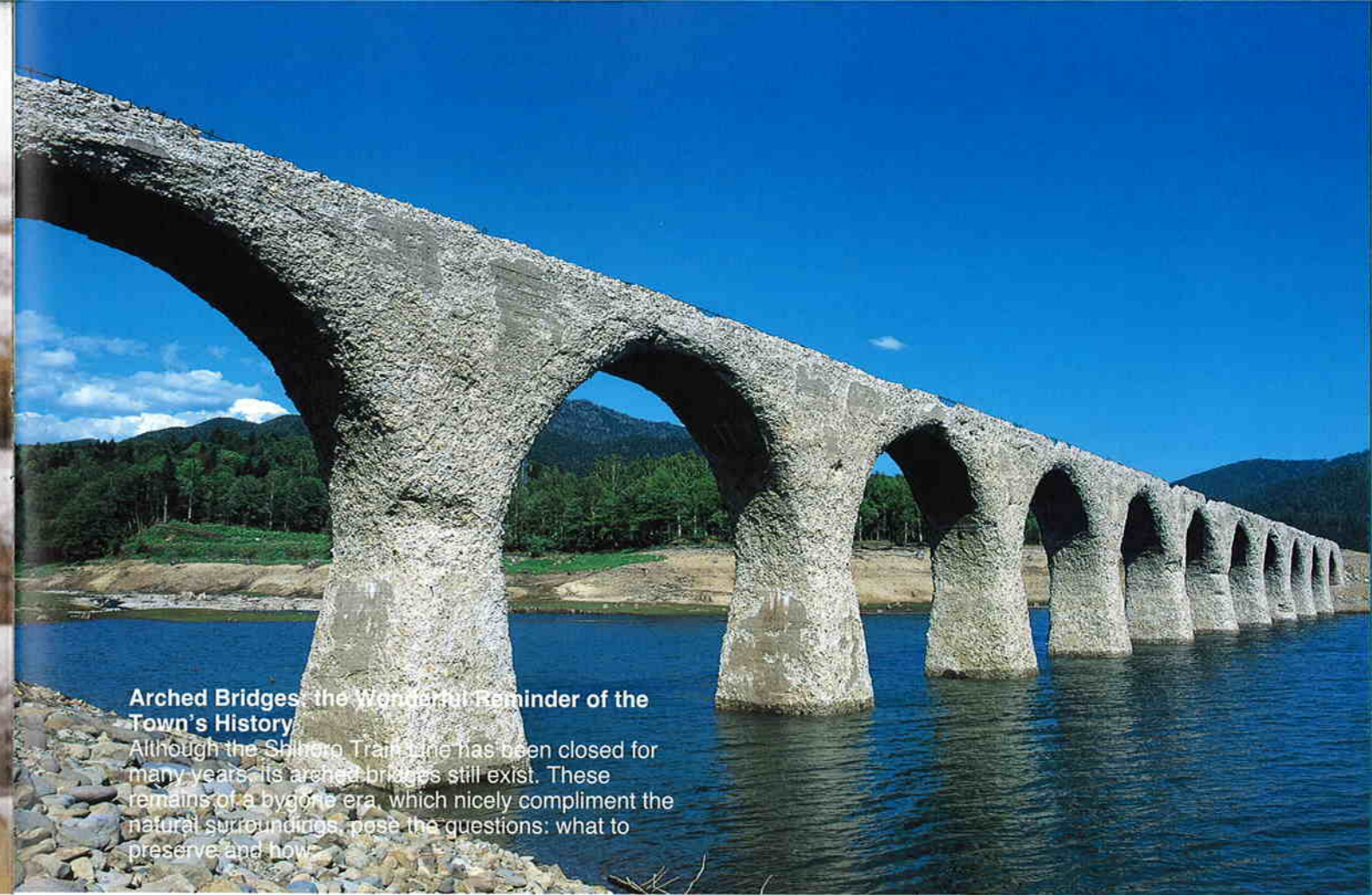
「町の活性化が商店街の活性化につながるのですから、みんなで知恵を絞っていかなくては。そのためには、地域で人材を育てる力、計画できる力、未来を真剣に語り合える力が必要なのではないでしょうか」
商工会が発足して40年。町の商業を支えてきた商工会は21世紀とともに、さらに足腰の強い自立した商店街づくりのために、新たな一歩を踏み出したのです。



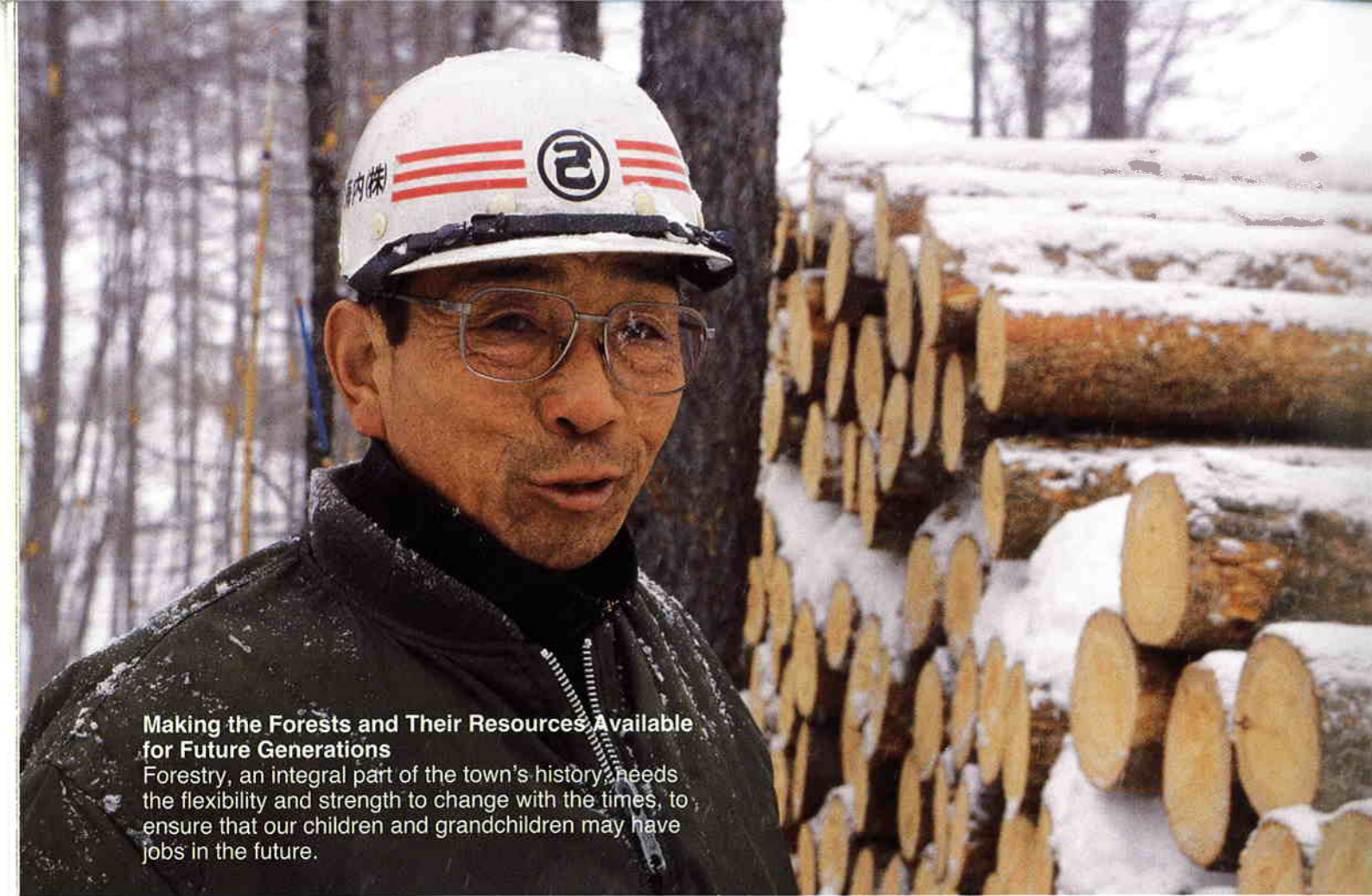
橋内

Kozo
Kitsunai

孝三 さん



Arched Bridges, the Wonderful Reminder of the Town's History
Although the Shinano Trail line has been closed for many years, its arched bridges still exist. These remains of a bygone era, which nicely compliment the natural surroundings, pose the questions: what to preserve and how.



Making the Forests and Their Resources Available for Future Generations
Forestry, an integral part of the town's history, needs the flexibility and strength to change with the times, to ensure that our children and grandchildren may have jobs in the future.

素晴らしい歴史の遺産・アーチ橋

角田 久和さん

Hisakazu Tsunoda

ここ数年、国内外の建築家から熱い視線を集めているものが、上士幌にありま
す。「アーチ橋」と呼ばれるこの橋は、
昭和11年から30年までの約20年間に建設
された旧国鉄士幌線のコンクリート橋で
す。大雪国立公園内には、大小30以上も
の美しいアーチ橋が架かっています。

「建設当時、橋が架かる音更川の溪谷
美との調和を考えてこのような橋になっ
たそうです。今盛んに言われているシビ
ックデザインという理念が、こんなに早
い時代にすでに取り入れられていたん
ですね」

そう話す角田久和さんは、「アーチ橋
友の会」の事務局長です。平成9年に糠
平で産業考古学会が開催され、出席した
学会関係者により歴史的な産業遺産とク
ローズアップされました。それを地域で



士幌線が廃止された今も残るアーチ橋群。
自然景観に配慮された産業遺産が私たちに問いかけています。
何をどう残していくべきか。

守らないわけにはい
きません。角田さん
ら有志が「ひがし大
雪鉄道アーチ橋を保
存する会」を発足し、
保存運動を開始。平
成10年には、町が取
得し保存活動を行うまでになりました。
その時に集まった署名は約6000筆。そ
の半分は保存すべき財産だという上士幌
町民によるものでした。

「数あるアーチ橋の中でも、糠平湖に
あるタウシユベツ橋梁は特に珍しいんで
す。湖の中にあるため水量によって姿を
現したり沈んだり…。ちよつと幻想的な
風景を湖に作り出しています」
その風景が観光でも注目されています。
静かな原始林の中、紺碧の湖面に映るア
ーチ橋。

現在は、保存する会から「アーチ橋友の
会」と形を変えて活動し、アーチ橋を観る
遠足などのフィールドワークが認められ
てきています。「産業遺産としてもこれか
らの上士幌町の観光資源としても貴重な
財産になっていくでしょう。ただ保存す
るだけではなく、アーチ橋にふれるとこ
ろから、本当の意味の自然保護、環境保全
を考えていけることを望んでいます」
町の人達の地道で確かな活動が、新し
い観光資源を着実に育てているのです。



自然の恵みに感謝して

子や孫に財産として残せる 森と資源を

内海 克己さん

Katsumi Uchiumi

「昔は栄えたね。街の中心部は活気に溢
れていて、山で食べている人がいっぱい
いたよ」

林業にたずさわって40年。町内で林業
を営む内海克己さんは話します。

上士幌町の林業の歴史は古く、北海道
開拓と共に育った産業と言えます。明治
中期から馬で山から下し、音更川を利用
した流送で木材の供給を行ってきました。
昭和14年には、鉄道が三股まで開設し大
量輸送が可能になり、その後の糠平ダム
の建設、また昭和29年の15号台風(洞爺丸
台風)による風倒木の伐採などもあり、
一時は帯広営林局唯一の規模となってい
ました。町の産業は農業と林業の両輪で
支えられてきたと言っても過言ではない
でしょう。



「20年ほ
ど前までは、
長さ20mも
ある真直ぐ
な木があっ
ただけで
ね。樹齢に
したら20
0年程にも
なるかな。
今は国産材
よりも外国産の木材の方が安いからね。
国産の需要が減ってるのは確か。日本の
いい木材を有効に活用する道を必死に模
索しているんだよ」



上士幌では、林業振興対策協議会を設
け国内の林業が盛んな町と情報交換など
を積極的に行い、時代に即した集材材な
どの人の体にやさしく強度のある天然の
木産物を開発しています。

「上士幌の林業は、これまでも伐って
植えてをしつかり繰り返してきたから今
につながっている。国の財産として、町の
財産としても我々林業に携わる人間が、
子や孫に残せるように育てていかなくて
はいけません。今が大切な時」

時代の求めるものに敏感に対応できる
しなやかさと強さ。上士幌の森のように
内海さんは立っています。

町の歴史とともに発展してきた産業。
子や孫につなげるためにも、
時代に即したしなやかさと強さを持ちたい。



上士幌町の物産

上士幌町の特産品は、どれも自然の恵みの豊かさをおしえてくれます。良質な天然の蜂蜜、じゃがいもや豆類をはじめとする季節を味わえる農産物などは、いずれもほどよく甘味があり、栄養をたっぷり含んだ素晴らしいものです。また、新鮮な牛乳を使った乳製品や、数々の銘菓は町民から親しまれ、お土産にも最適です。町内を流れる然別川流域で採取される黒曜石（十勝石）のアート感覚たっぷりの細工品、林業の町を印象づける木工品などは高く評価されています。上士幌町の自然の深さを感じられるでしょう。



かみしほろ豊年いきいきまつり



かみしほろこども冬まつり



上士幌神社秋祭り



上士幌ウィンターバルーンフェスティバル



パールのスカイライン開通式



町民植樹祭



上士幌町花火大会



オッパイ山サイクリング大会



糠平湖～然別湖横断歩くスキー大会



ドラッグイン上士幌



糠平湖水タイムトライアル

上士幌町のイベント

- 1月 ■糠平湖水タイムトライアル
■HBC杯全道B級糠平GS大会
- 2月 ■上士幌ウィンターバルーンフェスティバル
■糠平湖～然別湖横断歩くスキー大会
■かみしほろこども冬まつり
- 3月 ■糠平温泉スキー感謝祭！クリスマス
■タル縁日&大抽選会
- 5月 ■ドラッグイン上士幌第1戦
- 7月 ■オッパイ山サイクリング大会
■ドラッグイン上士幌第2戦
- 8月 ■北海道バルーンフェスティバル
■上士幌町納涼花火大会
■上士幌仮装盆踊り大会
- 9月 ■ドラッグイン上士幌第3戦
■かみしほろ商工生涯学習まつり
- 10月 ■かみしほろ豊年いきいき祭り
- 11月 ■町民文化祭
- 12月 ■糠平温泉スキー大会

Revitalizing a Hot Spring Town

Our hot spring spas are open to everyone especially visitors. All of Nukabira welcomes our guests. Now people in Nukabira Hot Spring Spa can continue with their revitalization plans.

他の宿の浴衣でお風呂に入りきてもいい。糠平に来た人がほっとできればいい。今再生へむけて歩む糠平温泉の人々。



大正7年に発見された糠平温泉。現在、糠平で温泉を営んでいるのは8軒。いずれも歴史のある宿です。しかし、十勝管内や、近隣の観光エリアとの競争の中で糠平温泉を取り巻く環境は必ずしもいい状態ではありませんでした。

「仲間と語り合う中で、みんなが一緒に良くなるように、糠平温泉全体の将来を広い視野で考えなくてはいけないと気が付いたのです」

蟹谷 吉弘さん
Yoshihiro Kaniya

温泉街再生

特集2 自然の恵みに感謝して

そう話すのは蟹谷吉弘さん。糠平温泉ならではのものは……。模索する中で見つけたものは、一つ手形を購入すれば糠平のどの宿の温泉でも3カ所まで入る事ができる「湯めぐり手形」や、2泊目の宿泊から好きな宿の夕食を選べる「ぬかびら温泉めぐり」。それから温泉街を森で包む計画。また、登山愛好家にも目を向け、口コミで着実にファンが増えています。

「旅館仲間の大切さも、東大雪の自然の素晴らしさも、そして自分の宿の良さも再確認できました。たくさんの方の財産があるんだから大丈夫」

糠平温泉再生に力ける蟹谷さんの力強い言葉です。蟹谷さんの宿にはもうひとつ目玉があります。それは「洞窟風呂」。もともと浴場が半地下にあつたため、思い切って洞窟にしてみました。こうしてそれぞれの宿の特徴を生かすことにも力を注いでいます。

「温泉付コテージやペンションもできています。新しい仲間が増えるのも楽しみです。蟹谷さんは、北海道に糠平温泉ありと言われる事を目標に、今ある糠平の財産を大切にしながら歩んでいます。」





上士幌町市街



オッタバイ山



ミズヒヨウ



糠平ダム



石狩岳



十勝三股



ひがし大雪博物館



丸山噴泉塔



糠平温泉スキー場



三国峠



ナイタイ高原牧場レストハウス



鉄道資料館



ナイタイ高原牧場



糠平大橋



航空公園キャンプ場



ルピナス公園



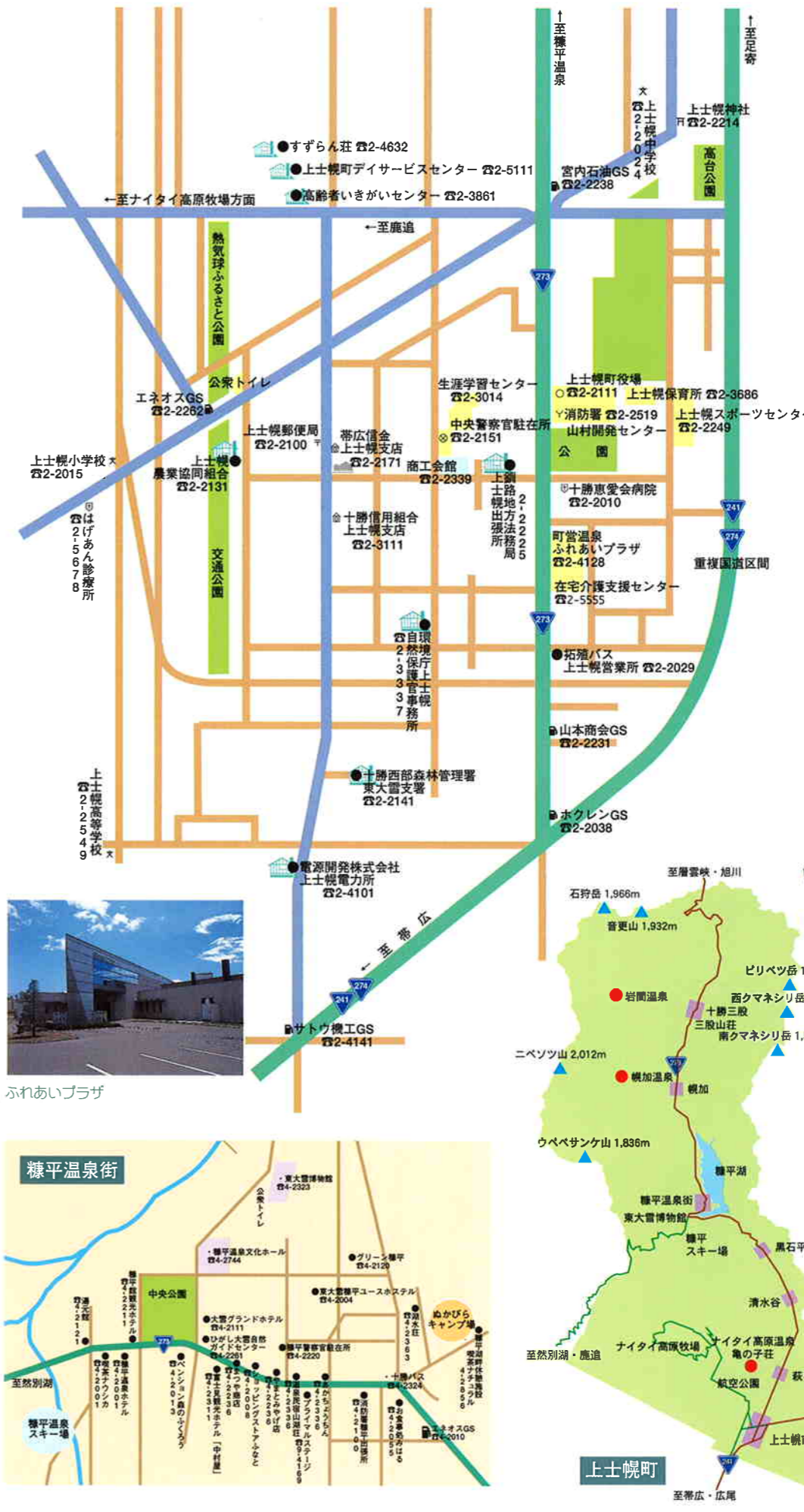
糠平湖

街探訪彩

Town Guide



ワカサギ釣り

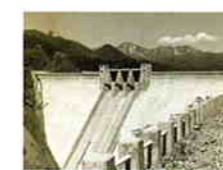


ふれあいプラザ



History 上士幌町のあゆみ

- 昭和 6年 ●土幌村から分村して上士幌村誕生
●初代村長市田清之就任
●帯広-上士幌間乗合自動車開通
●開村記念式典執行、この頃の人口5,499人
●拓殖鉄道中音更-上士幌間開通
- 7年 ●町内全域大凶作に見舞われる
- 9年 ●大雪山国立公園に指定される
- 10年 ●国鉄土幌線、清水谷まで開通
- 11年 ●第2代村長門傳金治就任
- 12年 ●土幌線清水谷-糠平間開通
- 13年 ●鈴木金作氏戦死により初の村葬を行う
●経済更生特別指定村となる
- 14年 ●国鉄土幌線、十勝三股まで開通
- 15年 ●法務局上士幌出張所設置
- 16年 ●満川元助氏加硫黄鉱山の試掘を始める
●糠平国民学校開校
- 17年 ●上士幌森林組合設立
- 19年 ●第3代村長武村宗太郎就任
- 21年 ●上士幌観光協会設立
●市街区の大火、罹災世帯28世帯153人
- 22年 ●上士幌森林署開設
●初代公選村長に鈴木泰助就任
●上士幌中学校開校
●無税村をめぐって陶器工場を創立
●上士幌消防団設置
- 23年 ●農業協同組合誕生
- 24年 ●拓殖鉄道東瓜幕-上士幌間廃止
- 25年 ●川西農業高校上士幌分校開校
●村歌、村章制定
●三笠宮御夫妻ご来村
●上士幌商工会設立
- 26年 ●帯広信用金庫上士幌支店開設
●第一次農業5カ年計画樹立
- 27年 ●行政施行20年記念・役場庁舎新築記念式典執行
●清水谷小学校開校
●中央カオリン勢多工場操業開始
- 28年 ●糠平電源開発工事始まる
●黒石平小学校開校
- 29年 ●町制が施行される記念式典執行
- 30年 ●糠平ダム竣工
- 31年 ●糠平電源開発完工式
●第二次農業5カ年計画樹立
- 32年 ●町営浴場営業開始
- 33年 ●皇太子殿下ご来町、上士幌高等学校をご視察
●町営塵芥焼却場落成
●糠平生物研究所開所
- 34年 ●第2代町長武村宗太郎就任
- 35年 ●市街六区大火となる
●糠平に小鳥の村開村
●消防会館落成
- 36年 ●第三次農業5カ年計画樹立
●開基30周年記念式典執行
- 37年 ●市街地水道の通水式執行
- 38年 ●町立上士幌高等学校校立に移管となる
●第3代町長武田要三郎就任
- 39年 ●豪雨災害、凶作決定的となる
- 40年 ●上士幌中学校統合校舎建設着工
●文化協会設立
- 41年 ●第四次農業5カ年計画樹立
●消防団創設40周年記念式典執行
- 42年 ●上士幌中学校校舎落成祝賀会
- 43年 ●町章あらたに制定される
- 44年 ●糠平経由-然別湖間バス運行開始
●電報電話局落成式
- 45年 ●町民憲章制定
●ひがし大雪博物館開館
●開基40周年記念式典執行
- 46年 ●糠平へき地保育所完成
●北居辺公民館完成
●第4代町長金野四郎就任
- 47年 ●萩ヶ岡生活改善センター完成
●大規模草地区育成牧場完成
- 48年 ●国道273号線三股トンネルが開通
●東部地区営農用水施設完成
●町営浴場改築完成
●糠平スキー場に町営リフト完成
- 49年 ●中央カオリン勢多工場閉鎖
●清水谷小学校開校



- 50年 ●糠平上水道施設完成
●糠平地区電話自動化になる
●第5代町長高橋正一就任
- 51年 ●北十勝二町清掃工場完成
●スポーツセンター完成
●丹波町と友好町盟約
- 52年 ●上士幌消防団創立50周年記念式典執行
●糠平大橋建設着工
●糠平トンネル、不二川トンネル開通
●国営北門地区総合農業開発事業着工
●常設保育新築完成
- 53年 ●上士幌小学校体育館完成
●町営テニスコート完成
●国鉄土幌線、糠平-三股間バス代行となる
●居辺地区飲雑用水施設完成
●ナイタイ高原牧場レストハウスオープン
- 54年 ●北居辺小学校改築完成
●上士幌中学校体育館完成
●糠平湖畔トンネル開通
- 55年 ●上士幌小学校プール完成
●高齢者生きがいセンター完成
●葬斎場完成
- 56年 ●勢多小学校開校
●町役場庁舎・消防庁舎完成
●開基50周年記念式典執行
●新上士幌町総合計画策定
●山村開発センター着工
- 57年 ●山村開発センターオープン
●豊岡小学校開校
●糠平大橋完成
- 58年 ●東居辺16遺跡発掘
●町営温泉ボウリング
- 59年 ●上士幌小学校改築完成
●大雪山国立公園指定50周年
●糠平電力船オープン
- 60年 ●ひがし大雪博物館大改修
●道立糠平診療所庁舎、医師公宅移転新築完成
- 61年 ●上士幌郵便局局舎完成
●釧路地方法務局上士幌出張所移転
●北門小学校改築落成式
●上士幌高等学校改築落成式
- 62年 ●上士幌高等学校舎落成、創立35周年記念式典
●国鉄土幌線廃止
●特別養護老人ホームすずらん荘開所
●萩ヶ岡小学校改築落成、創立70周年記念式典
- 63年 ●鉄道資料館オープン
●第3セクター上士幌サンウイング設立、太陽光発電システムによる水耕栽培
●東居辺小学校改築落成
- 平成元年 ●ラム酒「ナイタイの郷」発売
●生涯学習推進協議会、研究所、情報委員会設置
- 2年 ●北居辺小学校校舎躯体改築
●航空公園3カ年事業で着工
●熱気球日本選手権、上士幌で開催
- 3年 ●室内ゲートボール場落成式
●糠平温泉文化ホールが共用を開始
●第6代町長西尾敏幸就任
- 4年 ●生涯学習センター完成
- 5年 ●上士幌町図書館オープン
●下水道工事着工
●北海道バールンフェスティバル20回目を迎える
- 6年 ●全国生涯学習まちづくり研究会上士幌大会開催
●三股峠冬期開通（通年通行可能）
- 7年 ●第12回熱気球日本選手権開催
●高齢者生活福祉センター着工
- 8年 ●公共下水道供用開始
- 9年 ●高齢者生活福祉センター完成
●ふれあいプラザ完成
- 10年 ●上士幌ゴルフ場オープン
- 11年 ●全農ETセンター完成
- 12年 ●学校給食センター移転完成
- 13年 ●第7代町長竹中貞就任
●開町70周年記念式典開催



北の大地 元気マチ上士幌

大きな自然 大きなぬくもり 元気マチ上士幌



町の鳥
■カッコウ■
ホトトギス科の鳥で、鳴き声が「かっこう」と響く。さわやかな初夏を告げる鳥でもある。



町の木
■シラカバ■
カバノキ科の落葉高木。高さは30mに達する。樹皮は白く、緑の葉との調和が美しい。



町の花
■スズラン■
ユリ科の多年草で大きな楕円の葉に白くかわいい小花をつけ、さわやかな香りがする。



町章

上士幌の「上」を图案化したもので、上部は大空に舞い上がる力強い翼と大地に根をおろす若葉を意味します。下部の円形は町民の融和と団結を表し、未来に伸びゆく姿を表しています。

町の概要

上士幌町は十勝平野の北端に位置し東西18.2km、南北48kmと南北に長い地形の町で、面積700.87km²、その77%が森林、14%が農地の農業と林業を基幹産業とする町です。町のほぼ中央を流れる音更川は北部にある大雪山国立公園に指定されている山岳地帯を源にし、糠平ダムなどでは発電を行っています。また、糠平温泉などの温泉と、スキー場、豊かな自然を背景とした観光の町でもあります。

町民憲章

(S45・3・27)

- 一、心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- 一、おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- 一、きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 一、自然を愛し、美しく住みよいまちをそだてましょう。
- 一、文化を高め、豊かな郷土を築きましょう。

友好の輪

友好町は京都府船井郡丹波町で、昭和51年1月1日に提携を結びました。両町の間で、人的交流が盛んに行われています。また、交流町としてカナダアルバータ州スレイブレイク町ともゆかりが深く、AET(英語指導助手)が本町に派遣されています。